未来へ…開けた視界
『命の道』日沿道全線開通に前進

日本海沿岸東北自動車道（日沿道）の象潟－遊佐について、国土交通省は大震災の復興に関連し、整備計画の前提となる「計画段階評価」に着手する方針を明らかにしました。

このことは、本市においても、地域経済の発展と活力に満ちた災害に強いまちづくりの実現に大きな期待がかけられるものです。更に、山形・新潟県境の温海（鶴岡市）－朝日まほろば（村上市）も計画段階評価の対象に決定。日沿道全線322キロの開通に向け大きく前進しました。

にかほ市の取り組み

日沿道・象潟―遊佐間は基本計画区間に位置づけられたまま、14年半の間、事業着手のめどが立っていませんでした。

合併後、にかほ市では精力的に要望活動を行ってきました。

平成20年度に遊佐町、TDK株式会社と一緒に国土交通省等へ、官民一丸で日沿道の必要性を訴え、平成21年度には酒田市・遊佐町・由利本荘市・秋田市・にかほ市で構成する「日沿道山形・秋田県境区間建設促進同盟会」を発足。にかほ市長が会長を務め、以降、県境区間に特化した要望活動および建設促進大会を開催し、建設促進の気運を盛り上げてきました。

平成22年8月に民主党幹事長に遊佐町長と共に要望を、9月には山形県知事、酒田市長と共同で民主党副幹事長、国交省事務次官に要望。これは国交相が、高速道路新規着工を原則凍結すると発表したためです。

そんな中東日本大震災が発生。高速道路は「命の道」であることが再認識され、日沿道の必要性がより高まりました。

平成23年7月、日沿道県境同盟会を構成する首長らと政府、国交省、県選出国会議員に強く訴えました。同月、秋田県副知事と共に県選出国会議員に要望活動を波状的に実施。

地域経済発展や活性化、特色あるまちづくりはもちろん、国道7号以外に代替路線はなく、「日沿道＝命の道」であることを強調し、高速道路ネットワークの必要性を訴えてきました。

今後の流れ

「計画段階評価」は、昨年8月、公共事業を進めるにあたり、実施過程の透明性を図る目的で、整備計画に入る前に事業内容を検証するため、国交省が新たに導入したものです。

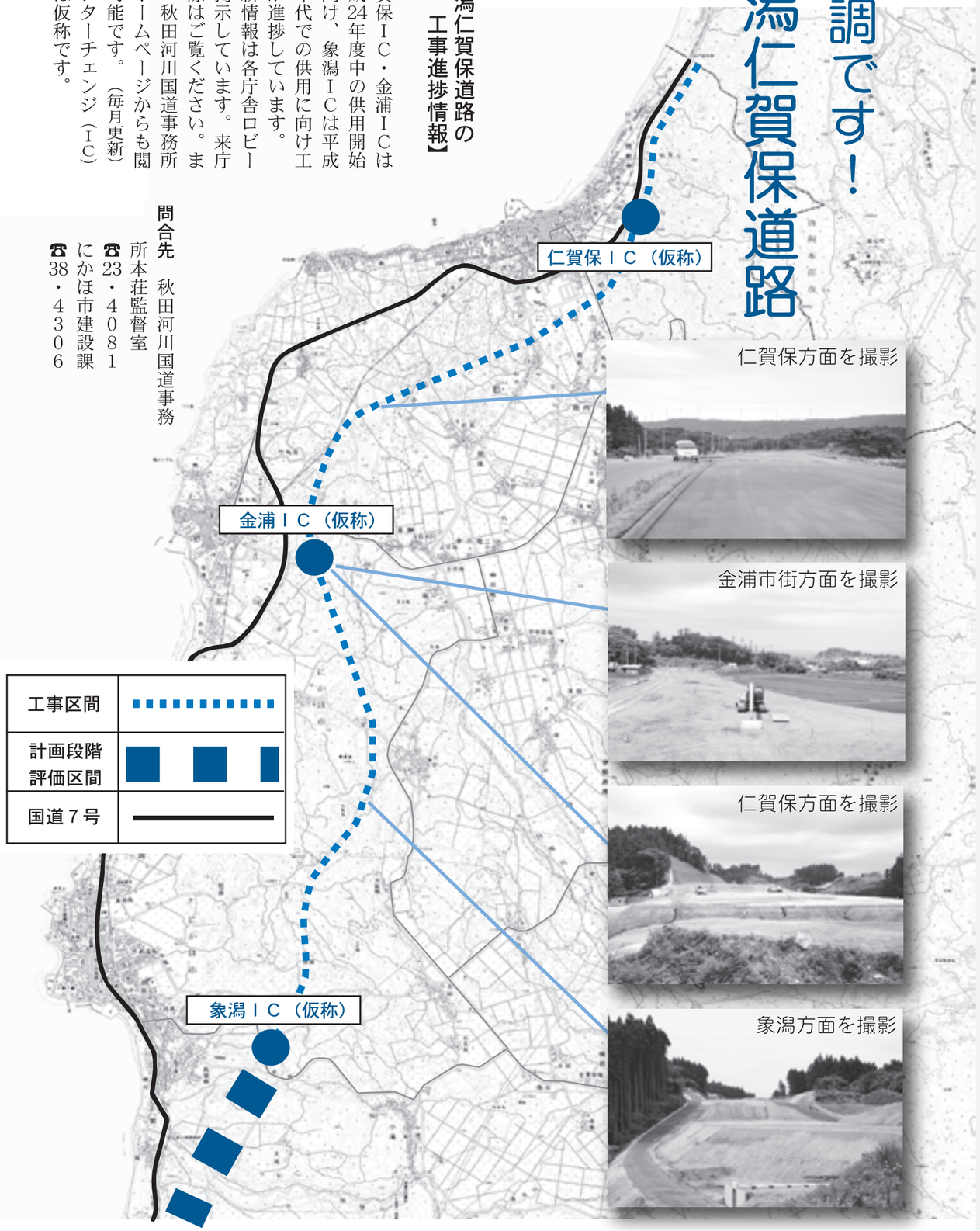
9月から、有識者らによる社会資本整備審議会東北地方小委員会が、ルート選定や効率的な事業の在り方などの検討に入る予定で、地元の意見を聞くなどして代替案を複数示したうえで、コスト面などから比較・評価し、最適案を選択するとしています。

その後、「環境影響評価」などを経て数年後に事業化され、その後10年以内の完成を目指すとしています。

日沿道の効果

災害時の救急輸送・緊急物資輸送ルートの確保。広域観光、農水産物等の販路拡大。企業立地による産業増進。物流コスト軽減による企業経営の向上。雇用創出。若者の定着。第2次・第3次救急医療施設のカバー圏域の拡大。北東アジア地域との国際物流や経済・文化交流促進。秋田港・酒田港・新潟港との連携の強化。地域主権の確立。住民の安心・安全などがあげられます。

順調です！象潟仁賀保道路



【象潟仁賀保道路の工事進捗情報】

○仁賀保ＩＣ・金浦ＩＣは平成24年度中の供用開始に向け、象潟ＩＣは平成20年代での供用に向け工事が進捗しています。最新情報は各庁舎ロビーに掲示しています。来庁の際はご覧ください。また、秋田河川国道事務所のホームページからも閲覧可能です。（毎月更新）

※インターチェンジ（ＩＣ）名は仮称です。

問合先　秋田河川国道事務所本荘監督室
☎23・4081
にかほ市建設課
☎38・4306